

#### 第4回 電力・ガス需給と燃料（LNG）調達に関する官民連絡会議

日時 令和8年3月10日（火） 15：40～16：00

場所 経済産業省 別館2階 227会議室及びオンライン

##### ○佐久室長

ただいまから第4回電力・ガス需給とLNGの調達に関する官民連絡会議を開催いたします。

事業者および関係機関の皆様方におかれましては、ご多忙のところご出席いただきありがとうございます。

まずはじめに、山田経済産業副大臣よりご挨拶申し上げます。

##### ○山田副大臣

皆さんこんにちは。

経済産業副大臣の山田賢司でございます。

本日は大変ご多忙の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から我が国のエネルギーの安定供給にご尽力いただいておりますことに改めて御礼を申し上げます。

皆様もご承知の通り、イラン情勢の急変により、緊迫性や不確実性が高まっております。

我が国が輸入するLNGのうち、ホルムズ海峡を経由するものは、年間輸入量の6%程度、約400万トンになります。

現在、電力・ガス会社の皆さまには、400万トン弱のLNG在庫を国内に保有いただいております。

つまり、ホルムズ海峡を経由する輸入量の約1年分に相当する在庫が日本にあるということになります。

また、国内の電力・ガスの需要は、冬の高需要期を終えつつあり、過去の傾向をみると、今後数ヶ月は、比較的消費量が少ない時期が続きます。

こうしたことを踏まえると、短期的に電力・ガスの安定供給に支障をきたす状況にはないと認識しております。

しかしながら、中東情勢が今後どのように推移していくか、依然として予断を許しません。

事態が長期化・深刻化するリスクも想定し、危機感・緊張感を持って、対応していく必要があります。

本日は、こうした問題意識のもと、LNGに関係する国内の事業者さまに幅広くご参集いただき、官民での情報共有の強化、そして、安定供給に向けた取組など今後の対応を確認さ

せていただきたいと考えております。

緊迫した国際情勢にある中で、電力・ガスの安定供給を実現していくためには、平時以上に官民で緊密に連携していく必要があります。

そのためには皆様方のご協力が不可欠になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○佐久室長

ありがとうございました。

プレスの方のカメラ撮りはここまででお願いいたします。

それでは続きまして、議事に入りたいと思います。

まずは事務局より資料3についてご説明いたします。

資料3に基づきまして、LNGをめぐる動向と電力・ガスの安定供給についてということで、ご説明を申し上げたいと思います。

ページをおめくりいただきまして、1ページでございます。

我が国のLNGの輸入の現状ということでございます。

LNGは原油に比べ調達先の多角化を進めておりまして、ホルムズ海峡を経由する輸入量は約6%、年間約400万トンということでございます。

左下の円グラフをご覧くださいますと、ホルムズ依存度ということで、ホルムズ海峡を通過して日本に来るカタール、アラブ首長国連邦のLNG、これがだいたい6.3%ということになってございます。

先ほど多角化と申し上げましたけれども、世界中から日本にはLNGが来ているということでもあります。

続きまして、2ページでございます。

イラン情勢を受けて、ホルムズ海峡の通過を見合わせている状況が継続しておりまして、先ほど申し上げましたカタールを中心に、ホルムズ海峡の奥からやってくるLNGが、ホルムズ海峡の通過を見合わせているという状況になっているということでございます。

3ページでございますけれども、カタールのLNGの生産状況ということでございまして、まず、3月2日にカタールエナジーがLNGの操業施設が軍事攻撃を受けたことにより生産停止をしたということを発表しております。

その後、3月4日にフォースマジュールの宣言をしているという状況でございます。

4ページでございます。ご参考までに、世界におけるカタールのLNG供給の見通しということでございまして、カタールのLNG供給量は世界で第2位、約8,000万トン、世界のシェアでいう約2割を占めという状況になっています。

右側ですけれども、主要国・地域におけるLNG輸入量、世界で、日本を除いて上位3か国・地域で、多い順番で、中国、韓国、EUというところの輸入の状況を示しております。

れども、中国においてはカタール24%、韓国においてはカタールから19.2%、EUはカタールから12.3%輸入している、こうした状況になってございます。

続きまして5ページですけれども、LNGの価格の動向ということでございます。

アジアのLNGのスポット取引価格、JKMですけれども、2月27日時点では11.06ドルだったという状況でございますが、これがこのイラン情勢の深刻化を受けまして3月9日時点では24.80ドルまで上がっているという状況でございます。

続きまして6ページでございますけれども、JEPXのスポット市場価格の動向ということでございます。

これは国内の電力取引価格の水準ということでございますが、こちらにつきましては、3月9日時点で11.43円ということで、昨年と比して、概ね同様の価格水準で推移をしているというように捉えております。

7ページでございます。

電源構成に占めるLNGの比率ということでございまして、我が国の電源構成のうち、火力発電が占める割合というのは、全体で68%ということですので、LNGは約3割を占めるというような状況になっております。

8ページで国内の電力・ガスのLNG消費量を確認いたしますと、電力は年間で3,700万トン、都市ガスは年間2,500万トン程度のエネルギーを消費するという状況でございます。

先ほど、副大臣からのご挨拶もございましたが、これから春になりまして、3月、4月、5月と需要が下がる低需要期を迎えるという状況でございます。

9ページでございます。

大手電力会社のLNG在庫の状況ということでございます。毎週、資源エネルギー庁では、発電用のLNGの在庫状況モニタリング実施しております。

このモニタリングによりますと、足元で、3月1日時点ですけれども、過去5年平均と概ね同水準、219万トンの在庫を保有しているということが把握できております。

続きまして10ページでございます。ガス事業者のLNG在庫の推移ということでございます。

2025年度のLNG在庫については、過去5年平均と概ね同水準で推移をしているという状況でございます。12月末時点で237万トンということでございます。

足元の状況についても、各社に個別ヒアリングを実施しておりまして、安定した在庫水準を確保しているということを確認してございます。

続きまして、11ページでございます。

LNGの安定調達に懸念が生じた際の対応についてということでございます。

2021年にLNGの価格が高騰するというような局面がございました。

このタイミングで国内事業者にLNGの安定調達に支障をきたす事態が生じた場合に備え、地域連携スキームさらには全国連携スキームというものを整備しております。

事業者による取組を行っても、なお、対応できない場合には、資源エネルギー庁は必要に応じて電力・ガス会社間のLNGの融通の仲介を行うということでございます。

左側にあります地域連携スキーム、これは各エリアごとに既に体制が構築されてございます。

全国連携スキームということでございますけれども、この官民連絡会議での情報共有ということも含めまして、実務者の会合も含めて必要な対応を取っていくということにしていきたいと考えてございます。

続きまして、12ページでございます。電力需給にかかるkWhモニタリングということでございます。

電力広域的運営推進機関が高需要期である夏季と冬季には、各発電事業者の燃料在庫調達状況を定期的に確認し、kWhとして電力が足りているかということについて。2か月先までの余力の見通しを公表するという取組を行ってございます。

通常、春秋の低需要期にはこうした取組を一旦休んでいるんですけども、今回の情勢の急変ということ踏まえまして、高需要期である夏季に向けて現在から燃料在庫の水準の把握ということをやりたい、このkWhモニタリングをやりたいというふうと考えてございまして、4月上旬ごろより、このデータを公表していくという取組をしたいというふうと考えてございます。

事務局からは以上でございます。

それでは次に、事業者の皆様方からご発言をいただきたいと思っております。

はじめに、電気事業連合会の森様からご発言よろしくお願いたします。

#### ○森電気事業連合会会長

本日はご発言の機会をいただき、誠にありがとうございます。

電気事業者の立場から発言をさせていただきます。

イラン情勢については、電力の安定供給に与える影響がないか、高い関心と緊張感を持って注視しているところでございます。

はじめに、足元の電力需給に関して申し上げますと3月の軽負荷期に入り、電力需給も安定している状況でございます。

ただし、気象状況による需要増加や、電力設備の計画外停止による供給力減少等のリスクに備え、引き続き、設備保全に努めてまいります。

次に、LNG調達に関しましては、先程ご説明のあったとおり、既にホルムズ海峡で船舶航行が大きく制限されていることに加え、カタールLNGの基地が攻撃を受け、生産が停止していると認識しております。また、LNGや原油のマーケットにも影響は及んでおり、2月末と比べて価格が急騰していると承知しております。

事業者としては、平素から調達ソースの多角化によるリスク分散に努めております。

ペルシャ湾内からの我が国のLNG輸入は6%程度に留まるほか、事業者は在庫も保有しているため、現時点では直ちに安定供給に影響が出るものではないと考えておりますが、あらゆる事態を想定し、緊張感を持って対応してまいります。

さらに、カタールは米国に次ぐLNG輸出大国であり、世界の供給の2割に相当する8,000万トン弱を生産しております。現時点で予断をもって今後の展開を予想することはできませんが、仮にホルムズ海峡封鎖やカタールLNGの生産停止が長期化すれば、世界のLNG需給バランスや価格に与える影響が大きくなることも考えられます。

このため、電力の安定供給を使命とする私共といたしましても、政府をはじめ関係各所の皆様と密に連携しながら、燃料市場や需給動向に関する情報収集、また安定供給確保に向けた対応に全力を尽くす所存です。

その際、他の供給国からの供給やスポット市場からの代替調達を行うだけでなく、必要に応じて、電力各社間での協力はもちろん、過去の需給逼迫の経験を踏まえて整備された全国連携スキーム等の仕組みを活用し、官民一体となって、また業界を越えて燃料確保に取り組んでまいります。

政府におかれましては、緊急時の支援に加え、事態が一刻も早く安定化するよう、関係国との外交面での連携を継続いただくようお願いいたします。

電気事業連合会からは以上でございます。

#### ○佐久室長

ありがとうございました。続きまして、日本ガス協会の早川様、お願いいたします。

#### ○早川日本ガス協会専務理事

日本ガス協会の早川です。

この度は発言の機会をいただき、誠にありがとうございます。

LNGの調達について、都市ガス業界では、これまで調達ポートフォリオの分散化を進めてきており、現状中東依存度は低く、加えて9割程度を長期契約によって調達しているため、現時点で安定供給に支障は生じておりません。

ただし、原油価格の高騰はLNG価格にも影響するとともに、国内外の買主に需給ひっ迫が生じると、世界のLNG市況やスポットLNG価格にも影響が及ぶため都市ガス業界としても、引き続き状況を注視していく必要があると考えています。

また、今後何らかの要因で需給ひっ迫が生じた際には、関係者と密に情報を共有しながら、大規模原料供給途絶時の対応ガイドラインを活用した都市ガス業界内の連携や、民間ベースでの地域連携スキーム、さらに全国連携スキームなど政府の枠組みや支援も活用して、消費者の皆様へ安心いただけるよう、安定調達に万全を期してまいります。

私からは以上です。

○佐久室長

ありがとうございました。

続きまして、エネルギー資源開発連盟の中原様、お願いいたします。

○中原エネルギー資源開発連盟会長

エネルギー資源開発連盟の中原です。

よろしくお願いいたします。

当連盟の会員企業は、中東地域ではUAE、イラク、カタール、オマーンで生産操業を行っております。

UAE、イラクは原油のプロジェクトでありますけれども、イラクは既に生産を停止、UAEは生産を続けておりますけれども、国営石油会社のADNOCが国全体の生産量を順次縮小させており、操業中の生産現場におきましても、タンク貯蔵能力の限界から、ここ1～2週間で全面的に停止をすることが予想されております。

カタールLNGにつきましては、先ほど事務局からご説明がありましたとおり、全てのLNG基地で生産を制止しているということでございます。

オマーンにおいては、ペルシャ湾外側であることから、現状では石油、LNGともに通常どおり操業しておりますが、一部の船舶に、戦争保険の関係ですけれども、寄港拒否が出てきており、予断を許さない状況になってきています。

このような状況の中、会員企業は現地駐在の職員の安全確保を図りつつ、産油国政府と国営石油会社と緊密な連携を取りながら、代替措置を含む最適な生産や速やかな生産再開ができるよう最大限の努力を致します。

また、中東から日本への石油、LNGの供給につきましては、今後の生産停止長期化による影響を極力抑えるため、連盟各社では他地域からの代替調達についての検討を開始しております。

各社の有するグローバルな生産拠点や調達ネットワークを活用し、日本への石油、LNGの安定供給に最大限努めていく所存です。

○佐久室長

ありがとうございました。

続きまして、JERAの奥田様お願いいたします。

○奥田株式会社 J E R A 代表取締役社長 C E O 兼 C O O

J E R A の奥田でございます。

まず本日、このような機会をいただきまして本当にありがとうございます。

官民が一堂に会し、足元の状況認識と今後の対応方針を共有することは、日本の電力安定供給を確保する上で極めて重要かつ意義深いというように考えております。

足元では、中東地域の地政学的緊張が高まり、カタールエネルギーからも不可抗力宣言がなされるなど、エネルギー供給網への影響についても不透明な状況が続いていると認識しております。

当社としても、緊急対策本部を立ち上げて電力の安定供給に支障が生じることがないように、強い緊張感をもって対応にあたっているところでございます。

現在もなお、ホルムズ海峡の通航が制限される状況にありますが、これまで進めてきた調達先の多様化や柔軟な運用実現の取り組みにより、当社の電力供給に直ちに影響が出る状況ではないというように考えております。

しかしながら、本事案が長期化した場合のリスクは予断を許しません。そうした場合に備えて、需給の安定を最優先にしつつ生活・経済活動への影響をできるだけ抑制することにも配慮した、有事における官民連携や民民連携のあり方について検討を進めていくことが重要であると認識しています。

具体的には、事業者間で燃料調達・在庫情報を共有したうえで、協調して燃料確保を図ることや、L N G 調達環境の悪化を踏まえて発電所の運用方法を柔軟に見直すことなど、これを通じて平時には一定の制約のある活動についても、有事には生活・経済活動への影響抑制を目的として実施できる体制を、官民協調して構築する必要があるのではないかと考えております。

一方で、国際燃料市場の動向をより適正に電力市場価格に反映することを通じて、お客さまに現況の深刻度をシグナルとしてお送りし、無理のない範囲で省エネルギー等の行動変容を促していくことも重要になるのではないかと考えております。

このようにお客さま負担の抑制にも配慮した緊急時における需給安定化対策を、政府と緊密に連携して検討させていただければと考えております。引き続きご支援賜りますよう、宜しくお願い致します

私からは以上でございます。

○佐久室長

ありがとうございました。

本日はオンラインとのハイブリッド開催になっております。

オンラインの方も含めまして、他にご発言を希望の方はいらっしゃいますでしょうか。

いらっしゃらないようですので、これで議事がすべて終了いたしました。

以上をもちまして、本日の会議を終わりたいと思います。

最後に、資源エネルギー庁長官の村瀬よりご挨拶申し上げます。

#### ○村瀬長官

資源エネルギー庁長官の村瀬でございます。

私からも、本日、ご参加いただいたことに感謝を申し上げます。

皆様から、官民での連携に対するご協力の表明を伺うことができ、心強く感じております。

ありがとうございます。

皆様の発言の中でもありましたように、冬の高需要期が終わり、比較的需要が少ない時期に入っていく中で、現在の在庫水準を考えれば、直ちにLNGがひっ迫する状況にはないと認識しております。

しかしながら、冒頭、山田副大臣からも申し上げたとおり、事態が長期化・深刻化するリスクも想定し、危機感・緊張感を持って、対応していくことが重要です。

資源エネルギー庁としても、様々なチャネルを通じた情報収集や関係国との連携、国内のLNGの在庫・調達の状況の把握などに取り組んでまいり所存です。

事業者の皆様におかれましては、緊急的な事態が発生した際に官民で連携して即応できるよう、平時以上に様々なレベルでエネ庁との緊密な連携の共有などに御協力をお願いしたいと思っています。

実務者級の会合も早急に開催したいと考えてございます。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

改めて、本日はありがとうございました。

#### ○佐久室長

ありがとうございました。

それではこれを持ちまして、第4回電力・ガス需給とLNG調達に関する官民連絡会議を閉会といたしたいと思ひます。

本日はご参加いただきましてありがとうございました。